

祝 令和4年7月31日(日) 南日本新聞掲載  
リュウキュウアユ観察学習



私たちの命を守ってく  
れてありがとう・・・

世界自然遺産になって一年がたちましたが、いろいろな問題がおきていま  
す。そのために今こそ、私たちの住む奄美の自然を守るための取組がひつ  
ようです。みなさんがしている観察学習や整地作業、ラジオの発表なども  
守るための取組になっていきます。私たちの取組をたくさんの人に知っても  
らい奄美の自然を守る活動を広げていけるといいですね。



登録1年の現在地  
奄美・徳之島 世界自然遺産

奄美市住用の役勝川中流に子ども  
の歓声が響く。住用小学校の児童17人が  
今月9日、奄美大島だけに生息する絶  
滅危惧種リュウキュウアユを観察して  
いた。

この場所は世界自然遺産の登録地。  
講師役のアユ養殖技術者又野峰蒼さん  
(43)「奄美市名瀬」は「世界の宝で学  
べるなんてぜいたく。この体験は必ず  
記憶に残る」と笑顔で見守る。

リュウキュウアユについて学ぶ同校  
の取り組みは、2006年から始まり  
16年目。観察会や学習発表会、秋の産  
卵シーズン直前には川底を整地する。  
遺産登録に向けた活動が本格的に始ま  
る前から続けている。

6年重井美心都さんは「去年より群  
れの数が増えていてうれしい。来年も  
たくさん見られるように秋の整地を頑  
張る」と喜んだ。

世界の宝保全



リュウキュウアユを観察する住用小学  
校の児童9日、奄美市住用の役勝川

未来担う子の教育要

■出前講座2倍に

徳之島では登録を機に、郷土の自然  
を学ぶ出前授業が増えた。自然保護活

動に取り組むNPO法人「徳之島虹の  
会」伊仙町伊仙IIによると、出前授  
業の依頼は21年度、小中高校だけで  
前年の約2倍の28件に上った。

出前授業の担い手となる認定ガイド  
16人は、農業など本業を持つ。行政か  
ら請け負う調査業務と出前授業が増え  
たため、ガイド業にシワ寄せが及ぶよ  
うになった。そのため本年度、民間の  
助成金制度を活用し、小中高校生を対  
象に12回の講座をあらかじめ計画。島  
外の研究者らも招き、毒蛇ハブの生態  
や地質、植物などを学べるようにした。

島内のガイドや講師ができる人材の  
不足を解消しようと、出前講座と同時  
にガイド講習も始めた。新規メンバー  
掘り起こしと現会員の底上げも見据え  
る。虹の会事務局長の美延睦美さん  
(59)は「人材育成は自然を守るための  
投資。活動を地道に続け、担い手を少

■大人は手遅れ

天城町は本年度、19年度から小中学  
校で本格的に取り組んできた世界自然  
遺産学習「あまぎ学」の副読本づくり  
に入った。来年度配布する予定だ。

「教職員は転勤が多く、島の自然に  
関する知識を身につけるために資料を  
求める声があった」と企画財政課主事  
の吉野琢哉さんの(33)。「子どもが自主  
的な調べ学習などで活用したり、家庭  
で保護者と一緒に見てもらえたりする  
ようにしたい」と狙いを話す。

奄美大島で30年以上自然学習の講師  
を務めてきた自然写真家常田守さん  
(69)「奄美市名瀬」は「未来を担う子  
どもへの教育が保護の要」と強調する。  
不法投棄や密猟・盗掘、外来種の持ち  
込み…。大人になってあしき習慣と決  
別するのは難しく手遅れだ。「自然の  
価値を知る子どもが増えれば、宝の島  
はこれからもきつと守られるはず」と  
訴える。  
(木下瑛司)「おわり」

しずつ増やしていきたい」と語る。